

第3期 静岡市スポーツ推進計画 (2027～2036)【骨子(案)】

静岡市総合計画

～第4次総合計画から第5次総合計画へ～

第4次静岡市総合計画は、行政が行う様々な政策（施策や取組）を体系化し、アウトプット（何をするか）を中心に整理しまとめた計画でした。計画の見直しにあたり、本市の深刻な人口減少を原因分析し2050年の人口の目標を定め、中長期的な視点から何をすべきかを計画する必要であるため、「政策集型」から、「成果志向型」へ見直すこととし、計画期間を2026年度から2035年度までの10年間とする第5次総合計画が策定されました。

誰もが幸せに暮らせるまちにするための方法

「共働・共創によるまちづくり」

行政の力だけではなく、市民・地域社会・企業・教育機関・行政など、社会全体の力による「**共働・共創**」が不可欠➡そのための仕組み・土台づくり

成果志向型

「市民にとってどういう良いことが生まれるのか」

というアウトカムを意識

「観光・スポーツ・文化」の分野では、それぞれが持つ魅力や資源を相互に活かしながら、交流の促進と地域の活力向上を図ることが位置付けられています。

静岡市の課題

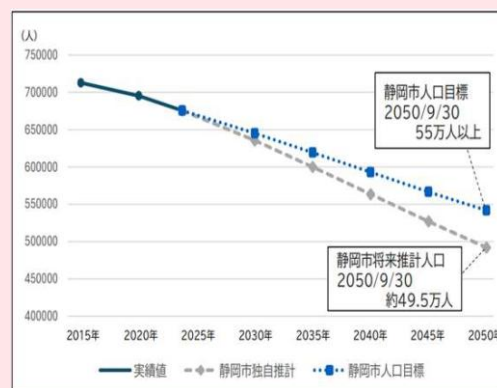
「人口減少」

静岡市と同規模の政令指定都市や静岡県では、1970年から2024年までの間で人口増加しているが、静岡市は1万人減少している。

静岡市の将来人口推計では、対策を講じなければ2050年には約49.5万人となり、現在と比べて約30%の減少が見込まれている。

特に、**若年層の流出**が大きな要因であり、市内大学等に進学した市内出身者の39%が市外企業に就職している。その背景には若者にとって魅力ある仕事や雇用が不足していることがあげられている。

市は2050年の**人口目標を55万人以上**に設定し、**地域の稼ぐ力を高め、若者の雇用を創出**することなどの施策を進めます。



※参照：静岡市公式HP・基本構想・総合計画

スポーツの定義

スポーツとは、スポーツ基本法において、「心身の健全な発達や健康・体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心の涵養等を目的として、個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と定義されています。

本市では、競技スポーツをはじめ、ランニングや散歩、体操のような軽運動まで、幅広い身体活動をスポーツに含めています。（意識的に体を動かす「生活活動」※も含む）

また、近年ではバーチャルスポーツやeスポーツなど新たな形態も広がりを見せており、「する」「みる」「ささえる」「あつまる」「つながる」といった多様な関わり方を含めて、スポーツを広く位置付けていくことが求められています。

※生活活動とは、身体活動の一部で、日常生活における家事・労働・通勤・通学などに伴う活動

改正スポーツ基本法（2025年9月）

★改正のポイント★

①「スポーツの価値」の再定義

「する・見る・支える」に加えて、新たに「**集まる・つながる**」というキーワードが基本理念に追加されました

②スポーツと街づくりの一体化

街づくりとの連携が努力義務とされ、地域のにぎわい創出や防災拠点としてのスポーツ施設の活用他、スポーツツーリズムや地域経済の促進に期待ができます。

③「アスリート」「参加者」の権利保護

ハラスメント防止を明文化し、国・自治体には指導者の優越的地位を背景とした言動の防止措置を義務付けるとともに、スポーツ団体には対策の努力義務を課しました。

④多様なスポーツの機会の確保のための環境の整備

情報通信技術（eスポーツ等）を活用したスポーツの機会の充実

国、県の動向

国・第4期スポーツ基本計画（2027年度～2031年度）（策定中）

◇計画の狙い◇

スポーツの「楽しさ」で人や地域の可能性を引き出し、未来を切り拓く（仮）

重点施策モデル

1 国民のスポーツ実施促進と、健康長寿や経済成長等実現への貢献

2 ハイパフォーマンスの追求とアスリート等を取り巻く環境整備を通じた社会への還元

3 スポーツの意義や価値を活かしたスポーツの地域・社会への貢献

※参照：スポーツ庁HP・スポーツ審議会スポーツ基本計画部会（第3期）（第10回） 配布資料）

静岡県・第4期スポーツ推進計画（2025年度～2028年度）

◇10年後に静岡県が目指す姿◇ **スポーツ・コネクティッド・フィールド**※

※スポーツによって人、企業、地域等が繋がり、新しい価値が常に創造される

◇基本理念◇

オール静岡で実現する、スポーツによる県民のウェルビーイングの向上
～県民が幸福を実感できる社会をつくります～

基本方針1

スポーツによる豊かで、幸せな暮らし・社会の実現

基本方針2

スポーツの魅力による地域活力の醸成

～改定のコンセプト～

- イベント中心の取組から日常でのスポーツ振興
- ウェルビーイングの視点を計画理念に搭載
- スポーツの成長産業化
- スポーツ基本法改正に伴う新たなスポーツの形

※参照：静岡県公式HP・静岡県スポーツ推進計画

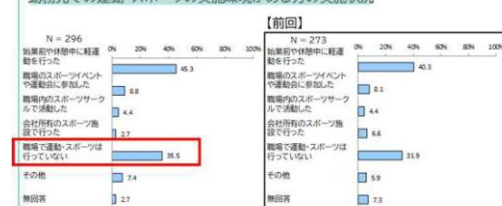
市民意識調査 結果と課題

この1年間の運動・スポーツの頻度における週1日以上実施の割合・性年代別



▶ 20代～50代の子育て・働き盛り期の実施率が低い傾向がある。

勤務先での運動・スポーツの実施環境がある方の実施状況



▶ 前回調査に比べ、「職場で運動・スポーツは行っていない」の割合が増加している。

▶ 職場に運動・スポーツの実施環境があっても、約4割弱の方が運動・スポーツを実施していない。

現状

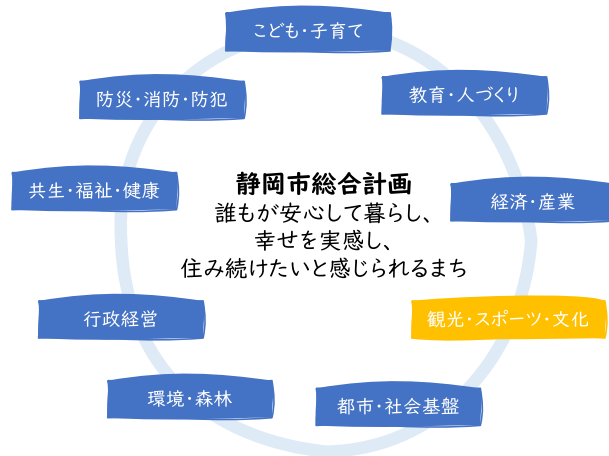
- 特に20～50代のスポーツ実施率が低い。（平成21年度から）
- 運動・スポーツを週1～2日実施したいと思っている人の半分が、現在は「時間がないから」スポーツを行わないと回答。
- 勤務先で運動・スポーツの実施環境がある方が、週1日以上、運動・スポーツを実施する割合が高い。
- スポーツを行う施設や場所では、自宅や路上などの身近な場所での運動・スポーツを実施する割合が高い。（平成21年度から）
- 運動・スポーツの実施頻度が高いほど、充実感や幸福感が高い。
- この1年間で「運動・スポーツをささえる活動」を行った方は13.0%。

課題

- 引き続き、20～50年代をターゲットにした施策が必要。
- 「**時間がない**」という方をどのようにスポーツ実施につなげるか。
- 企業を対象にした、運動・スポーツの習慣化に関する施策**を行うことでスポーツ実施率の向上につながる可能性がある。
- 自宅などで簡単にできる運動・スポーツの必要性。スポーツには充実感や幸福感を高める価値(力)活用したスポーツ施策を行う必要がある。
- 「運動・スポーツをささえる活動＝大会やイベントなどの「スポーツボランティア」というイメージで捉えられているが多かったが、**運動・スポーツをささえる活動は多岐にわたっているという意識に変換してもらう必要がある。**

第3期 静岡市スポーツ推進計画（2027～2036）【骨子（案）】

計画の基本的な考え方



◆スポーツ推進計画の位置付け

静岡市スポーツ推進計画は、市の最上位計画である静岡市総合計画に基づき、スポーツ分野における施策や事業を具体的かつ計画的に推進するための計画であり、市が目指すまちの姿の実現に向けた「実施計画」として位置付けられるものです。

◆策定の目的

第2期静岡市スポーツ推進計画（2023～2030）では、「**スポーツが持つ力で誰もが健康で豊かな生活を実現する**」という基本理念のもと事業を進めてまいりましたが、静岡市第5次総合計画が策定されたことに伴い、第5次総が目指す「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」の実現のため、第3期スポーツ推進計画（2027～2036）を策定します。

第3期静岡市スポーツ推進計画

基本理念 スポーツを通じて、市民の健康を増進するとともに地域経済を活性化するまちにします

国や県、5次総を踏まえ、改定後の計画へ組み込む視点

スポーツが持つ社会的効果を「地域を支え、未来を創る力」と捉え、最大限活用していく

健康・ウェルビーイングの向上

- ・幼児期から様々なスポーツに触れ、運動・スポーツが「楽しい」「続けたい」と感じられる取組の実施
- ・企業に対して社員の運動・スポーツを習慣化させる取組を実施
- ・体育館で開催しているスポーツ教室等に関する情報を一元化し、分かりやすく情報を発信
- ・スポーツ活動（イベントや大会等）を通じた集まる・つながる機会の創出

スポーツに親しむための環境整備

- ・人口動態や利用実態を踏まえたスポーツ施設の適正配置の検討
- ・指定管理者制度の活用や民間活力の導入
- ・スポーツ・インテグリティ確保のため、指導者のスキルアップにつながる機会の確保

多様な主体との共働・共創によるスポーツの推進

- ・ホームタウンチームやスポーツ推進委員と連携したスポーツ参画機会の充実
- ・企業や学生との共働によるスポーツ活動の活性化

市内スポーツ資源を活用した新たな価値の創出と地域の魅力向上

- ・静岡市が持つ資源を活用し、スポーツによるまちづくりの推進（ユニバーサルスポーツの聖地化、2030年開業予定のアリーナ、清水駅東口に建設予定のスタジアムなど）
- ・大会・合宿等の誘致によるスポーツツーリズムの推進
- ・ホームタウンチーム認知度上昇を通じた、みるスポーツの拡大

ユニバーサルスポーツの推進を通じた共生社会の実現

- ・誰もが、いつでも、どこでも楽しめる「ユニバーサルスポーツ」の聖地化
- ・ユニバーサルスポーツに関する大会やイベント、教室を開催

基本方針

課題：市民の健康・ウェルビーイングの向上のため、人口減少等を踏まえた持続可能なスポーツ環境を確保する必要がある。

柱1 ライフステージに応じた健康・ウェルビーイングの向上

【指標①：16歳以上の週1日以上のスポーツ実施率】
60%（2025）→70%（2031）→70%（2036）
【指標②：自身の生活において、スポーツは大切なものと思う市民の割合】
40.6%（2025）→〇%（2031）→〇%（2036）

柱2 スポーツに親しむための環境整備

【指標①：スポーツの希望実施頻度と実施率の差の解消】
19%（2025）→〇%（2031）→〇%（2036）
【指標②：する・みる・ささえるのすべてに参画した市民の割合】
9.2%（2025）→〇%（2031）→〇%（2036）

子どものスポーツ機会の充実

★働く世代と女性のスポーツ活動の推進

高齢者のスポーツ活動を通じた社会参加の促進

多様な世代で楽しむスポーツ活動の推進（eスポーツの活用も含む）

★スポーツ施設のマネジメント改革

スポーツ指導者の育成によるスポーツ・インテグリティの確保

スポーツボランティア活動の普及促進

競技力向上への支援

課題：地域・経済・市民スポーツの活性化のため、市内のスポーツ資源（スポーツ施設やホームタウンチーム等）を活用し、多様な主体による共働・共創のもと、更なるスポーツ活動の推進をする必要がある。

柱1 多様な主体との共働・共創によるスポーツの推進

【指標①：静岡市はスポーツが盛んなまちだと思ふ市民の割合】
67.8%（2025）→70%（2031）→70%（2036）
【指標②：静岡型スポーツ・イン・ライフ推進パートナー認定団体数】
22団体（2025）→100団体（2031）→200団体（2036）

★ホームタウンチームとの連携・共働の推進

スポーツ推進委員との共働によるスポーツ活動の推進

★地域や企業との連携・共働の推進

学生との連携・共働の推進

柱2 市内スポーツ資源を活用した新たな価値の創出と地域の魅力向上

【指標①：市外から各種大会・合宿に参加する人の人数】
〇件（2025）→〇件（2031）→〇件（2036）
【指標②：市内ホームゲーム観戦費用】
51.2億（2025）→72億（2031）→92億（2036）

スポーツによるまちづくりの推進（スタジアム・アリーナ関係）

公共スポーツ施設の民間活用

全国大会等の開催支援や合宿の誘致

スポーツを通じたシティプロモーション

★ホームタウン活動の推進によるみるスポーツの拡大

基本方針2 地域・経済の活性化を通じて、市民スポーツの裾野を拡大します

スポーツ推進委員や地域、企業等との共働を通じて、地域課題の解決や多様な主体のつながりの創出を図り、地域の魅力向上や活力の醸成を推進します。あわせて、合宿・大会の誘致や公共施設の民間活用、プロスポーツへの関心の高まりによる「みるスポーツ」の拡大などを通じて、来訪と滞在を促し、経済循環を生み出します。

課題：共生社会の実現のため、ユニバーサルスポーツに係るソフト・ハードの一体的な環境整備及び人材・組織体制を強化し、市民や関係団体等との共働・共創により取組を推進する必要がある。

基本方針3 清水区庵原地区を中心にユニバーサルスポーツの聖地化を推進し、その取組を市内全体に広げます

清水区庵原地区を中心にスポーツ施設のバリアフリー化を進め、ユニバーサルスポーツの拠点を整備するとともに、統括団体と連携した取組を展開することで、誰もがスポーツを楽しめる共生社会の実現を目指します。

柱1 ユニバーサルスポーツの聖地化の推進による共生社会の実現

【指標①：庵原地区におけるパラスポーツ施設利用者数】
20,546人（2025）→40,546人（2031）→40,546人（2036）
【指標②：障害のある方の16歳以上の週1日以上のスポーツ実施率】
11.8%（2025）→40%（2031）→40%（2036）

★スポーツ施設のバリアフリー化

★一般社団法人ユニバーサルスポーツしずおかとの連携・共働

★ユニバーサルスポーツに関するイベントや大会の開催を通じた共生社会への理解促進

★：重点施策